

8. 食と農を通じた人の繋がり、誰もが安心して 生きがいをもって暮らせる街づくり

グループ名 食と農でまちづくりを考える会
代表者名 飯島 弘子

① 活動の目的

野田市の中心市街地として栄えていた商店街が、現在では後継者もなくシャッターが降り、
活性化を図るとともに野菜販売店の出店が求められています。中心地から離れたわが農園の収穫野菜を提供する場を設置しそこが住民が憩えるコミュニティの場となり、第2段階として配食や食事会の開催をする場を設置しそこが住民が憩えるコミュニティの場となり、第2段階として配食や食事会の開催を検討します。将来的に商店街や自治体等とのネットワークで、情報収集・発信の場として、暮らしに役立つボランティアセンター構想図を策定。また、子供からお年寄り、障がい者、誰もが参加できる農業体験開催に至るまで、食と農に関わる人との輪で明るく生きがいのある暮らしが営める街づくりを目的とします。

② 活動概要

2006年に、園芸福祉活動として、野田市社会福祉課と農政課、野田市障がい者団体（身体・精神・知的）、パルシステム千葉、NPO 支援センターちばとともに共働で障がい者の自立支援を目的としたボランティア活動をスタートし、障がい者施設を中心に、野田市の特産品である「えだまめ」をはじめ、サツマイモや大根の栽培で、収穫・販売に至る一連の作業を実践し、自然環境の中で人との交流・共働作業、そして旬を味わい、社会参加を体験・体感する福祉活動をしています。

ボランティアメンバーは、停年を迎えた方から、70歳を超えた方々が登録し、毎週定例活動日に障がい者の作業支援に入る他、通年の農園づくりを通して、地域市民や親子が誰でも参加・体験できる芋掘り体験、ブルーベリー積み体験、白菜キムチづくり、味噌づくりなどのイベントも開催するようになりました。

2008年より、収穫した果実や野菜を無駄なく活用できるような調理方法や加工品を工夫するようになり、野菜の提供できる売り場やコミュニティレストランが作れたらという検討がされるようになりました。

本年度は、さらにステップアップを図り、活動の説明会を開催し、野菜を活用した料理紹介と試食会を開催しました。

また、コミュニティ活動メンバーを構成し、市内中心地区での活動アピールの場として、農園の野菜即売会を含め、模擬点、ミニコンサート等をいれたイベントを開催することができました。

また、手作りお菓子や加工品づくりに挑戦し、試食会や交流会の場を設けることができました。

今後も、農園活動を通じた街づくりに踏み出し、多くの市民が参加できる場づくりを提供していくための活動を進めていきたいと思えます。

③ 決算報告書

収 入		
大同生命厚生事業団助成金		100,000
支 出		
機材購入費	テーブル 10 台、椅子 30 脚	42,000
事務費	即売、説明会開催案内チラシ作成コピー代 広報掲載費用	32,600
調査研究費	調理実習食材及び消耗品代	31,500
活動費	ガソリン代、見学視察費として、謝金等、講師代	23,000
支出合計		129,100

ボランティアメンバーでハウスづくり



親子農園体験/ジャガイモ収穫

農園のブルーベリージャム原料



説明会の模様／調理紹介コーナー



地域イベント、野菜販売の模様

